
”マジックシード”の物語

宗像竜子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

”マジックシード”の物語

【Nコード】

N8230Y

【作者名】

宗像竜子

【あらすじ】

“マジックシード”と名付けられた、外界から鎖された魔法使い達の隠れ里を舞台に語られる、幼馴染四人組の日常小話と里に伝わる昔話。

はじめに。

そこはいつも木々に囲まれている

何かを守るように 閉じ込めるように

それは結界

小さく弱い禁断の種子が安らかに生きる為の

> i 3 5 7 1 0 — 1 4 5 8 <

< はじめに >

そこは魔法使い達の隠れ里。

“マジックシード”と名付けられた、外界から鎖された小さな異世界。

そこに住む人々は生まれつき何かしらの魔法を持ち、自然に感謝し、自然を愛して平和な日々をおくっています。

ここで語られるのは、そんな隠れ里に住む幼馴染の四人組、マリト・ガーヴェ・サエナ・リルーが会おう日常と小さな冒険譚。そして里に伝わる、遠い昔の物語。

“マジックシード”。

それは『未知の可能性』が眠る場所。

< 主な登場人物 >

・マリト＝バトーク

火の祝福を有する『炎熱魔法』の使い手。

物語の語り手。

火という激しさを象徴する要素の祝福を持ちながらも、性格はどちらかというとおっとり穏やかなタイプ。

“マジックシード”の長の孫でもある。

祖父母と母親の四人家族で、父親はいない。

赤い髪と金の瞳。

・ガーヴェーシエンツ

光の祝福を有する『光輝魔法』の使い手。

マリトの幼馴染。

『光輝魔法』を持つが、この魔法の使い手は“マジックシード”では村に一人しか現れない特殊なもの。

先代が死亡すると、血縁関係とは無関係に次代の使い手が生まれて来る。

両親はすでになく血縁の老女の元で暮らしている。

白銀の髪と瞳。

・サエナ＝ファルジエン

大地の祝福を有する『育成魔法』の使い手。

マリトの幼馴染。

生き物を育むこの魔法の所有者は遺伝とは無関係に必ず緑色の瞳を持つて生まれるが、その理由は不明。

心優しくおとなしいが、時として周囲が驚くような大胆な行動を取る事も。

大家族の長女。

栗色の髪と若葉色の瞳。

・リルー＝ケラス

闇の祝福を有する『暗闇魔法』の使い手。

マリトの幼馴染。

闇を操る『暗闇魔法』の使い手は、外界では『魔人』『魔女』として迫害を受ける身の上。

幼い時に母親と一緒に“マジックシード”へやってきた。寡黙で常に控えめだが、マリト達という時は子供らしい表情を見せる。

里の外れに母親と暮らしている。
漆黒の髪と瞳。

春節祭にて。（前書き）

春の訪れと贈り物。

春節祭にて。

> i 3 5 7 1 6 — 1 4 5 8 <

僕等の里にも春がやってきた。

今日は春の到来を祝う祭り 《春節祭》だ。

長い閉鎖的な冬から解放された春を祝って、里中の人間が今日という日を楽しむ。

「わあ、きれい！」

リルーが珍しくはしゃいだ声をあげる。

声の方を見ると、春の装いをしたサエナが微笑んで立っていた。花のような薄ピンクのふわふわの衣装は、サエナにはすごくよく似合っている。

『育成魔法』の使い手は男女問わず柔らかな緑の瞳をしている。サエナのそれは、今日は一段と誇らしげだった。

「ねえ。マリト、ガーヴェ、リルー。ちょっとお願いがあるんだ」

サエナが悪戯っぽく僕等を手招きする。

「何だよ？」

「いい事」

ガーヴェが不思議そうな顔で尋ねると、サエナはにっこりと笑って僕等に耳打ちした。

「ねえ。お祭りの最後に、花火を上げてみんなをびっくりさせない

？」

驚いた。

サエナはどちらかと言うとおとなしいタイプなのに。

でも、確かに僕とガーヴェが魔法の花火を、暗闇の召喚をリルーがすれば、昼間でも花火は見られる。そして、多分それはサエナには出来ない事。

「どうかな？」

微笑むサエナに、僕等はにやりと笑って応える。

そんな面白い事、やるに決まってる。

でも、不思議なのはどうしてそんな事をサエナが言い出したのか、という事。

けれど花火の用意している間に、とても重要な事を思い出した。今日が、何の日かという事を。

僕等は祭りの舞台で春の舞いを踊るサエナを見ながら、こっそりと話し合った。僕もガーヴェもリルーも、来るべきその瞬間を思い浮かべて思わずにんまり笑ってしまう。

きつと、みんな驚くに違いないぞ！

そんな事を考えている間に、やがて舞いが終わった。最後に長が祭りの終わりを告げれば、今年の春節祭はおしまいだ。

その直前を狙って、僕等は動いた。

「来たれ！ 闇の帳よ――！」

まずリルーが、暗闇魔法を使って広場に闇を召喚する。

周囲が不意に闇に包まれ、里のみんなはびっくりしたように空を見上げた。

今だ！！

僕は用意していた、火種代わりの一握りの砂を空へと投げた。

「光よ、集え！！」

「炎よ、舞え！！」

僕とガーヴェが一齐に光と炎を砂を基点にして呼び集める。砂にはあらかじめガーヴェが魔法をかけてあった。

闇に光と炎の花が咲く。

そして。

『ハッピーバースデー！ サエナ』

闇にそんな光の文字が浮かび上がった時、僕等はいつの間にか舞台を降りてやってきていたサエナに抱きつかれた。

そう、春節祭の日はサエナが生まれた日でもある。

サエナの家は大家族で兄弟だけでも八人はいるし、しかもそのほとんどが育成魔法の使い手なものだから、毎年この時期は祭りの準備にみんなかまけてしまって、どうしてもサエナの誕生日の事は次の次になるって、前にサエナが少し淋しそうに言っていた事を僕は覚えていた。

「ありがとう！！ 嬉しい…みんな、大好きだよ！！」

僕等は目論見が成功した事、そしてサエナが一つ大人に近付いた事を喜び合った。

里の長から後でちょっとばかりお小言をもらったのは……
また別の話だ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8230y/>

”マジックシード”の物語

2011年11月24日16時48分発行